

第4回県西地域活性化推進協議会 会議結果概要

(H27. 3. 20 14:00~15:00 於：神奈川県小田原合同庁舎 3階会議室)

○ 開会（県西地域活性化担当部長）

○ 知事あいさつ

黒岩知事：本日は大変お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

この、県西地域活性化プロジェクトは、今年度がスタートの年であり、まずは「未病」についての普及を図るとともに、モデル的な事業展開を進め、様々な関係者との調整を行ってまいりました。この1年間の取組としましては、5月に、地域における先導的な取組を支援するために創設しました「新たな観光の核づくり等促進交付金」に、皆様から積極的な御提案をいただきました。また、7月には、「未病いやしの里の駅」や「食の提供を行うモデル事業」なども募集し、現在いやしの里の駅は70の施設が登録されております。モデル事業も3施設で実施され、多くの皆様に好評いただいていると聞いております。「未病の戦略的エリア」の中核拠点として整備を検討している「未病いやしの里センター」につきましても、前回の協議会で基本的な考え方をお示しさせていただきました。このように、初年度である26年度は、皆様の御協力をいただきながら、スタートアップの年として着実な事業展開が図れたものと考えております。

27年度は、「未病を治す」ということが目に見える取組を積極的に進めていきたいと考えております。そのために、プロジェクトの「事業展開」を図るとともに、「広報戦略」や「拠点構築」に向けた取組を進めてまいります。

県西地域活性化プロジェクトは、地域の経済を活性化させるための取組であり、皆様のやりたいことを盛り込んで策定したものです。単に、県や市町が実施する事業をまとめたものではなく、地域全体がこのプロジェクトと同じ方向を向いて、地域を盛り上げていくためのものです。主役は、まさに皆さんであり、県は皆さんの活動を全力でサポートする土壌づくりが仕事だと思っております。

そこで、本日は、平成26年度の実施内容と、平成27年度の予定について、協議会の皆様と情報を共有し、来年度に向けた歩みを一層確実なものにするために開催しました。27年度の事業につきましても、国の地方創生の動きもあり、かなり積極的に事業展開が図れる内容になったと思っております。特に、県西地域を「未病の戦略的エリア」としてアピールする地域の核となる、「（仮称）未病いやしの里センター」の設置に向けては、皆さんの積極的な

関わりを期待しております。

私は、このプロジェクトを皆さんと共有し、進めていくことにより、県西地域が「未病を治す」世界に冠たるエリアとなって活性化することで、人口減少社会に負けない選ばれた地域になり、超高齢社会のモデルにしていきたいと考えています。

本日は、限られた時間ですが、忌憚のない議論をお願いしたいと思います。

- 資料1から資料1－9まで説明（政策局長）
- 新たな観光の核づくり等促進交付金による事業の取組状況について説明（南足柄市長、真鶴町長、湯河原町長）
- 資料2から資料8まで説明（政策局長）
- 質疑・意見交換

小田原市長：昨年立ち上がって、この1年間で、県の皆さんには、色々このテーマ、当初、門戸の広いテーマでしたので、どのような形で具体化するのかなということで、我々も非常に興味をもっていましたけれど、今年度、また来年度に向けてはより具体的なプロジェクトの予算化も進んで、我々もそういうスケジュールの中で球をしっかりと打ち返していかなくてはならないという思いで聞いていました。未病いやしの里センター、ME-BY0タウンなどは、当初、その概念が分かりにくかったんですけども、今回非常にクリアになったので、この辺についても地域で挙げていける提案がないかどうか、民間の方ともよく相談して、我々も詰めていきたいと思います。最後に、地方版総合戦略についても、小田原市でも秋ぐらいまでに何とかまとめたいと思っていますけれども、政策局長からお話のあった観点も加味して、まとめていきたいと思っています。

お願いということではないですが、既に取組をいただくことになっていると思いますが、根府川の交差点についてです。県の皆さんには色々のご苦労をかけて、18日からは信号の改正が行われて、この後、渋滞等は特に発生していないと報告を受けています。しかし、オリンピック・パラリンピックまでに開通していただく広域農道の湯河原線については、非常に重要な役割を担ってくると思いますので、この事業進捗については、遅滞なく進めて、なるべく早く開通していただけると。とにかく小田原から湯河原にかけての1帯は非常にポテンシャルを持っている地域ですので、この実現については特段の御配慮をいただきたい。あと、サイクリング・ウォーキングについても、

かなり具体的な取組の提案をしていただいております、これまでそれぞれの市町が持っている資産をこういう形でつないでいくことで、大きな可能性の実現につながりますので、こちらも是非よく連携を取らせていただきながら、地域の連携の軸の構築、我々としても取り組みたいと思いますので、よろしくお願い致します。

南足柄市長：先ほど、政策局長からも話があった、地方創生については、各市町の提案は県西地域活性化プロジェクトと全くもって同一であるというような考えの下に、我々も進めているところです。地方創生については、各市町の提案は新たなものではなく、今まで溜めてきた、今まで蓄積をしてきた県西地域活性化プロジェクトのテーマをもって、まさに力を倍化して、神奈川県と一緒にあって、国に対して地方創生の市町提案として形にしようとして取り組んでおりますので、是非よろしくお願ひしたいと思ひます。それから、27年度は、いわゆる目に見えるような形で、県西地域活性化プロジェクト一つ一つを実行していく段階でありましょし、東京オリンピックまでを計画期間としておりますので、我々も具体的な事業、例えば（仮称）大型直売交流センター（道の駅）について、今、基本計画・実施計画まで出来上がっておりますので、それらについても是非具体的な予算措置といひますか、そうしたものを目に見える形で、何卒よろしくお願ひをしたいと思ひます。

開成町長：サイクリングは、やはり気になるんですけども、今あるサイクリングコースとサイクリングのエリアの構築の關係が、いまいちよく分からない部分があつて、今あるサイクリングコースの整備がどうなるのかなというところが気になるのですけれども。

県西地域県政総合センター所長：もともとサイクリングや遊歩道については、各市町の担当部署から「一緒にやろうよ」という話を受けており、既存のコースの補修などについてもお金をかけていきます。ただ、サイクリングコースや遊歩道自体は、市町が主体的にやっただくことを前提に考えていますので、市町として、どうしてもここをやりたい、こういう整備をしたい、こういうものにお金を出していくと言っただければ、県も一緒になつてやっっていくという形で考えています。こうしたことを短期集中的に、皆さんと一緒になつて整備を進めていきたいと思ひています。

大井町長：今日は隅から隅まで非常に関心があるテーマが出されたわけで、本当にありがとうございます。そんな中でですね、一つ、ちょっと確認をさせていただきたいと思ひますが、ME-BYOタウンの形成についての提案ですが、これはいわゆる民間のハウスメーカーやハウジング会社が手を挙げる時に、全体が50戸のうち、例えば20戸に補助をもらうというのは可能ですか。それとも、50戸の宅地開発をするのであれば、50戸全部じゃなければいけないの

か。それとどのくらいの補助がつくのか、そんなところを教えていただくとありがたいなと思うのですが。

政策局長：今、考えているのは、1団地あたり3,000万円ぐらいの補助をしたいと考えています。その考え方は、一つの家を作るのに3,000万円かかるとしたら、健康機器等を設置するのに一割くらい高くなるだろうと。その高くなった部分に対して3分の1ぐらい補助していこうということがベースになっています。それが20戸ぐらいに相当するものなんですけれども、それは20戸で良いという考え方ではなくて、それを元手にできるだけ大きな団地にしていただきたいので、積算のベースはそのように考えていますけれども、50戸なら50戸に対応していただける提案の方が、我々としてはありがたいと思います。

大井町長：これは今までにない取組じゃないかと思うんですね。過去に住宅地が足りない時は、こういう団地開発などに、住宅を開発するにあたって、国でも支援する制度がありましたけれども、近年では新たな形ですね、環境を守るとか、そういうことの中での住宅開発、エコタウンだとか、スマートタウンだとか、そういうような傾向にある中で、ME-BY0タウンというのはまさに新しい取組じゃないかと。うちの方も民間開発が少しありますので、また民間への情報提供をお願いします。

松田町長：大学連携事業費ということで3,800万、予算が計上されていますが、事業の範囲、限度額、条件などについて、教えていただきたいと思います。

政策局長：1大学あたりの上限は定めておりません。ただ、この3,000万円は、三浦半島地域と県西地域とを合わせた額で、ここに複数の大学からの応募を予定しておりますので、提案内容によって変化があります。ですから、100万円のものもあれば、2,000万円のものもあるというイメージです。ただ、県だけの負担という考え方ではなくて、大学の負担も考えております。それは学生や教授の活動を、労務賃として換算して、全体に対して3分の2ぐらいを県の方で負担することをベースにしております。また、これから募集をしますので、どのような提案が出てくるのかを見ながらセンターの所長が全体的な決定をする。プレゼンとかではなくて、センター所長が採択をするという事業スキームを考えています。

県西地域県政総合センター所長：各市町が既に大学と連携した事業を色々やられていることもあり、私どもの職員がいくつかの大学を回ってどのような事業をやりたいか御意見をお聞きしています。また市町とも今まで打ち合わせをしていますが、更に細かく、こういうことを大学と一緒にやってみたいという御意見をお聞きして、そういった情報を大学に伝えて、どのくらいの事業が出てくるのか、ある程度頭に入れた上で、上限額などについても、そ

の中で定めていきたいと考えています。

山北町長：県西地域活性化プロジェクトについては、森林セラピーを始めとした山北町の様々な事業を位置づけていただき、ありがとうございます。その中で、スポーツ普及促進プロジェクトの具体的な取組として、山北つぶらの公園の整備があり、未病を治すというテーマから、足湯などが計画されていることは、承知しているのですが、特にスポーツ普及促進プロジェクトとして整備する目玉があれば、もう少し詳しくご説明いただきたいと思います。

藤澤県西地域活性化担当部長：ヘルスケアパークにつきましては、県土整備局の方で健康に配慮した整備を進めていくということになっており、特に県西地域の県立公園につきましては、そうした形で今後整備したいということです。バリアフリーですとか、健康遊具の設置など、具体的な内容については来年度の、設計・整備の中で進めていくと伺っています。

小田原市漁業協同組合：今、知事の肝いりで、シープロジェクトが検討されております。来週の25日が最後の会議ですけれども、27年度に三浦半島地域に予算が計上されています。そういう中で今回の県西地域活性化プロジェクトの中にもスポーツ普及促進プロジェクトというものがあるわけですので、できたらシープロジェクトの流れを県西地域にも、運んできていただきたいと思います。例えば、ダイビングでは、知事自ら県西地域の海でダイビングをされていますけれども、そういう取組をできればいいと思っています。海の活性化ということで漁港整備にも多額のお金もかけているところですが、個々の漁業者の収入源、収入増を考えますと、今の時代、専門性を持っていると言われている時代ではございませんので、そういうものも取り込んでいただければと思っております。

政策局長：シープロジェクトにつきましては、25日が最終回であり、そこで提言をいただいて、本格的にはその提言に基づいて事業を計上していこうということで、当然、小田原から三浦半島までの全域を対象としています。今回、地方創生交付金の先行型ということで、まだシープロジェクトの本格スタートではないのですが、先行して三浦地域でやっというところ、今後は、小田原、真鶴なども含めて、ダイビング等の事業をやっていく予定です。

中井町長：スポーツ普及促進プロジェクトの中で、パークゴルフの講習会等、今年の3月に行われています。27年度については、地域の交流大会の実施に向けた調整とありますけれども、その後の予定がどうなっているかという部分と、もし町のパークゴルフ場の整備をしたい場合に、これから補助金が出るのかどうか、その辺もお伺いしたい。

政策局長：まさにそういう提案に応じていくのが、県西地域活性化プロジェクト促進交付金です。町長は昨年、交付金のプレゼンテーションに参加されて

いらっしゃらなかったもので、お分かりにならないかもしれませんが、提案があれば、補助をするという考えではなく、コンペに参加していただきます。各市町から、色々な案がいくつも出てきた中で、審査員が「これがいいな」ということで採択されれば、パークゴルフ場についても県からの交付金が出て、それで整備することが可能になります。そんな仕組みで進めていきたいと考えています。

中井町長：未病という考え方でプロジェクトを進めていくためには、1年、2年の問題ではなく、継続していかないといけない。そういったことを考えていかないといけないのかなという判断を今しています。

県西地域県政総合センター所長：今回初めて市町のパークゴルフ場を全部集めたパンフレットを作りました。地元の方だけを相手にしているのであれば、別に大々的にアピールしなくてもいいのですが、地域外の方に、県西地域でパークゴルフというのが盛んなんだ、面白いんだ、健康にもいいんだということ伝えるためには、こういうようなパンフレットが必要だと考えて、皆さんとも相談し作りました。今後は、地方創生の交付金も5年間ですので、未病に関連して色々な提案をしていただければ対象になるかもしれませんし、市町村振興補助金の方でも一定部分は対象になると思いますし、つくりによっては大きなお金を支援できることがあるかもしれません。そうした通常の補助も検討できると思います。

湯河原町長：まず、先ほどの小田原市長が話された広域農道の整備については湯河原からもお願いをしたいところです。また、未病そのものの概念とかイメージは、この1年でかなり浸透し始めて、具体的な取組も動きだしているという、この現状はもう伝わってくるわけです。今後、箱根での未病サミットなどにも、取り組んでいく中で、知事は色々なところで、健康寿命という概念を示していますが、市町でもそういったものが算出できるのか、今後、県の指導をお願いしたい。なぜかと言うと、例えば、我が町は高齢化率36%と高いのですが、介護認定の率は県平均より低いのです。ですから、今後こうした取組をしていく中で、何か効果が数字として、すぐに出てくることではないでしょうけど、取りまとめたり、発信ができるのかどうかという部分について、唐突かもしれませんが、進めていただくことが、取組を継続していただくためには必要との思いがありますので、是非、一つよろしくお願いたいと思います。

黒岩知事：もうすぐ結果を公表できると思うのですが、東京大学のビッグデータの権威であります喜連川先生が、国民健康保険のレセプトデータをビッグデータとして処理することをやっており、それぞれの地域ごとに、この地域はこういう病気の人が多いですよとか、データが全部出てきます。それを基

に改めて対策をやっていただくところから始まりますが、そうした具体的なデータ化というのはこれからもどんどん進んでくると思っています。私は、分かりやすいから敢えて使っているのですが、実は健康寿命というのはかなり主観的な概念なんです。そうした主観的なものからも、これからはまさにデータ化ということが鍵を握ると思ってます。

○ まとめ

黒岩知事：本日は誠にありがとうございました。あっという間に時間が来てしまいました。活発な御意見をいただきました。「未病」ということをキーワードにしてプロジェクトを進めてまいりましたけれども、皆様方がそれぞれの地域でかなり知恵を絞っていただき、また、民間の方も色々な形の知恵を出してくださいまして、非常に大きな広がりを見せてきているなど本当に実感をしているところであり、本当に心から感謝申し上げたいと思います。

つい先日も、たまたまテレビを観ていましたら、もう「未病」の番組だなと思うものがゴールデンタイムに長々とやっていました。要するに、春の野菜をテーマに、この野菜はこういう人に効くとか、こういうときに食べればいいのか、魚はこういう症状の人はこの食べ方がいいという話を延々やっているという、まさに「未病を治す」という食のあり方から入っていく我々の構想とまったく同じなんです。 「未病」についての意識が非常に高まっている中で、我々はそれを更に先導していきたいという思いから、今度の10月に開催する「未病サミット神奈川 in 箱根」を、是非成功させたいと思っております。これ、かなりハイクラスの人たちが集まるような雰囲気になってきております。今まで国際戦略として、世界の様々なところと、MOUを結んできました。こういった実績を全部投入して、世界から相当なレベルの人たちが集まってくるような感じになっております。アバウトに言いますと、今、ゲノムの専門家とビッグデータの処理の専門家、ICTの専門家、そしてものづくりの専門家、こういった人たちを融合させていく中で、この「未病」というものを科学していくという、最先端の医学的なサミットになりそうな感じです。こういう非常にハイレベルなものと、地域の中で民間や住民レベルでも一生懸命やっているという、この二つの総合的な取組の中で、この「未病」ということで県西地域を本当に世界から見えるような形にもっていきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

○ 閉会